



HIROSAKI
UNIVERSITY

社会学 × 工学 農学 × 経営学

令和8年度

弘前大学大学院 地域共創科学研究科

Graduate School of Sustainable Community Studies 2026

地域リノベーション専攻

産業創成科学専攻

HIROSAKI UNIVERSITY

研究科長メッセージ



弘前大学大学院
地域共創科学研究科長
小岩 直人

日本の地域社会は人口減少、少子高齢化、若者の域外流出、労働力不足など多くの社会問題に直面しています。地域社会をいかに力強く持続させていくかが大きな課題となっています。

地域共創科学研究科は、このような地域の課題に取り組むべく、令和2年4月に誕生した新しい研究科です。取り組む観点として「地域を守る」、「地域から攻める」を挙げました。地域リノベーション専攻は、地域を守るうえで重要な社会学と工学を軸に、産業創成科学専攻は、地域から攻めるうえで重要な経営学と農学を軸に、高度な専門性と俯瞰性を兼ね備えた人材を育成します。

私たちは「共創」という言葉に、ふたつの意味を込めました。ひとつは文理共創です。地域共創科学研究科では、文系と理系の大学院生が、それぞれの専門性を意識しながら、協力して課題に取り組み、新しい価値の創造を目指します。これは、ひとりの人間のなかに文系と理系の素養を融合させようとする文理融合とは異なる考え方です。私たちは、さまざまな分野の専門家が、刺激し合い協力しあうことを重視しました。なぜならば、複合的な地域の課題は、ひとりの超人のみによって解決できるものではなく、さまざまな専門分野の力を結集し、多角的に取り組むことによってしか解決できないからです。

ふたつ目は域学共創です。大学院生や大学教員が地域の専門家等と共に、地域の現場が抱える課題を理解し、互いの専門知や実践知を尊重しながら新たな価値の創造を目指します。地域には多様な人々が暮らしており、地域課題を解決するには、多くのステークホルダーの意見を取り入れたり、対話を重ねたりする必要があります。また行政関係者や企業家、地域のNPOや専門家との協働も欠かせません。

皆さんが、地域共創科学研究科で専門性ととともに俯瞰性を鍛え、異分野の専門家や地域の実践者と共創すれば、地域社会の未来は必ず拓かれると確信しています。

INDEX

研究科長メッセージ	1
理念・専攻・3つのポリシー	2
地域リノベーション専攻	4
産業創成科学専攻	6
研究環境、社会人支援制度	8
大学院で学ぶために必要となる主な経費、学費・奨学制度	9
入学試験	10
新入生の声	11
在学生の声	12
研究紹介	14
修了生の声	16
就職支援、進路状況	17

地域共創科学研究科

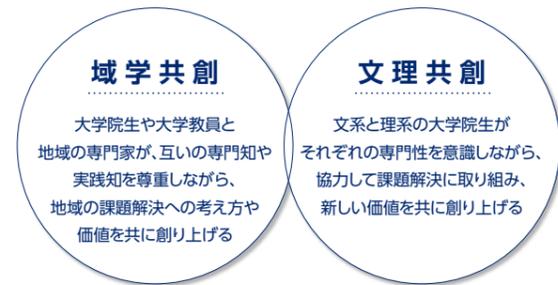
Graduate School of Sustainable Community Studies

人口減少が進む日本の地方では、コミュニティの維持や産業の発展が困難な状況にあります。地域共創科学研究科は、この現状を打破するために、大学の専門的な知識と地域社会が持つ実践的な知識を交差させ、新しい価値を共に創造することを「地域共創」と位置づけ、地域共創を科学する研究科を目指します。

理念

地域共創科学研究科における“共創”

それぞれに研究分野を持つ学生が、互いの専門性を尊重し合い、新たな価値を創出すること。



専攻

地域リノベーション専攻

社会学と工学を中心に、地域づくり・防災・自然エネルギーの活用などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域を守る」方法を構想します。

産業創成科学専攻

農学と経営学を中心に、農水産物の高付加価値化や商品流通などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに「地域から攻める」方法を構想します。

3つのポリシー

地域共創科学研究科

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

1. 教育理念・目標

本研究科では、社会科学・工学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と研究領域の垣根を越えた俯瞰性を兼ね備えた高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成する。

2. 求める学生像

学士課程等で修得してきた分野の基礎的な知識のほか、地域の特性や課題を理解しながら、異分野にも興味関心を持ち、課題解決等に向け実践的に取り組む意欲と行動力のある者。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

1. 域学共創に必要な基礎スキルの修得

スキル科目 共創の基盤となる、エビデンスに基づいた地域社会の把握や、知的財産を活用した価値創出を学修する。

2. 専門性と俯瞰性を修得

専攻科目 共創の基盤となる専門性と俯瞰性を身に付けるため、異分野にまたがる専攻科目を設定。

3. 域学共創・文理共創に資する能力の修得

地域共創科目 異分野の専門家からなるチームが協働することの重要性を理解し、協働による地域社会の機能維持や産業発展に資する計画を立案し、実行することで新たな価値を創造(共創)する力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■地域社会の未来について、専門的・俯瞰的知識を用いて、より良い在り方を構想できる力の修得

■地域の課題解決のために、さまざまな分野の構成員からなるチームを自ら組織し、フロントランナーとして先頭を立てて運営できる力の修得

■地域社会の機能を持続的に維持したり、地域社会の礎となる産業を発展させたりする計画を立案し、粘り強く実施することで新たな価値を創造(共創)できる力の修得

地域リノベーション専攻

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- 地域の特性や潜在的な資源等を深く理解し、地域を支える機能の維持や再生に必要な(社会学または工学などの)基礎的な知識を身につけている人
- 自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専門家と一緒に地域の未来を構想し、その実現にむけて実践的に取り組む意欲と行動力のある人
- 地域社会の機能を維持し再生するために、地域の専門家や多様なステークホルダーと協働しながら、組織的に課題を解決する意欲のある人

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

- 地域の特性や潜在する資源を活用し、地域社会の機能を維持し再生する方策を構想できる力を育成するために、専攻科目として社会学や工学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- 異なる分野の研究者や地域の専門家と共創することの重要性を理解し、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻共通科目として「地域リノベーション特論」を置きます。
- 地域を支える機能を維持し再生するために立案した政策や計画を多面的に評価できるように「政策・事業評価演習」を置きます。
- 持続可能な地域の未来を構想し、その実現に必要な政策や計画を論理的・体系的に考える能力を育成するために、修士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- 社会学や工学などの専門的・俯瞰的知識を用いて地域の特性や潜在する資源を的確に把握し、持続可能な社会へと機能転換する方策を意欲的に構想できる力を身に付けていること。
- 持続可能な地域社会を共創によって実現するために、自らの専門と異なる分野の研究者や地域の専門家を含めた体制を構築し、フロントランナーとして先導的に運営できる力を身に付けていること。
- 多様なステークホルダーの意見などを総合しながら、地域に密着した政策や計画を立案することで新たな価値を創造(共創)できる力と、その効果を多面的に評価できる力を身に付けていること。

カリキュラムの特徴

本研究科では、社会科学・工学・農学の科目を幅広く学びながら専門性と俯瞰性を高め、地域共創を先導する人材に必要な資質や能力を身に付けるため、「スキル科目」、「地域共創科目」、「専攻科目」、「特別研究」の4つの科目区分を設定しています。

科目区分	単位数	要件
◆スキル科目	2単位	必修2科目2単位
◆地域共創科目	4単位	必修2科目4単位
◆専攻科目	16単位	必修2科目(専攻共通科目)4単位、 選択必修12単位
◆特別研究	8単位	選択必修4科目8単位
計	30単位	

産業創成科学専攻

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- 地域の課題を深く理解し、課題を解決するために必要な(農水産学または経営学などの)基礎的な知識を身につけている人
- 自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専門家と一緒に課題解決に向けて科学的に研究し、実践的に取り組む意欲と行動力のある人
- 地域産業の発展のために、域内だけで完結することなく、域外との連携も視野に入れた外向き志向で地域課題を解決する意欲のある人

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

- 地域産業の課題を十分に理解し、その解決のために必要となる専門的な知識を修得させるために専攻科目として農水産学や経営学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- 地域の産業特性と課題に対して、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻科目として「地域産業創成特論」を置きます。
- 農水産学や経営学など各々の専門性による付加価値、さらにはそれらの共創による付加価値を生み出すための構想力やマネジメント力を修得させるために「共創価値創出演習」を置きます。
- また、地域産業の課題を探究し、課題解決にむけたプランを科学的・論理的・体系的に考え、実践し得る能力を育成するために、修士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- 農水産学や経営学などの専門的・俯瞰的知識を用いて、地域産業の特性や課題を的確に把握し、地域社会を維持・発展させるようなローカルにおける生業(なりわい)を構想する力を身に付けていること。
- その生業をローカルからグローバルに展開し、地域の価値を高め、地域経済を牽引する産業を構想できる力を身に付けていること。
- 各々の専門性を活かしつつ、異分野の専門家との共創によって地域の価値を高める新しい知を生み出すための共創価値を創出する力を身に付けていること。
- 科学的思考に基づいた研究力を基盤とし、地域資源を活用した商品を開発する力、マーケット志向による企画を提案する力、さまざまな分野の専門家による共創状態をフロントランナーとしてマネジメントする力を身に付けていること。

地域リノベーション専攻



■入学定員

15名

■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
コミュニティデザイン	修士(地域共創社会学)
レジリエンステクノロジー	修士(地域共創工学)

■人材育成

『地域を守る』 高度専門職業人の養成

社会科学・工学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域を守る」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

■想定している進路

- ・ 国の機関
- ・ 地方自治体(行政職・技術職)
- ・ その他NPO団体
- ・ コンサルタント業
- ・ シンクタンク
- ・ 地域貢献型企業
- ・ 地域密着型企業
- ・ 電気/ガス/熱供給/水道業
- ・ 建設業
- ・ 保険業
- ・ エネルギー関連業 など

■教育カリキュラム

地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

◎授業科目

〈地域共創科目〉

必修科目

- ・ 地域共創特論
- ・ 地域共創演習

選択科目

- ・ インターンシップA
- ・ インターンシップB

〈スキル科目〉

必修科目

- ・ 地域データ解析特論
- ・ 知的財産管理特論

専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることによって、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

◎授業科目

必修科目

- ・ 地域リノベーション特論
- ・ 政策・事業評価演習

選択必修科目

- ・ 地域調査演習
- ・ 地域研究特論
- ・ 生態人類学特論
- ・ グループ・ダイナミックス特論
- ・ 社会心理学演習
- ・ メディア社会学特論
- ・ 家族社会学特論
- ・ 都市社会学特論
- ・ 地域社会学演習
- ・ 応用社会学特論
- ・ 都市・農村計画特論
- ・ 社会教育特論
- ・ 人文地理学特論
- ・ 社会教育演習
- ・ コミュニティデザイン演習
- ・ 地域での臨床発達支援
- ・ 地形環境学特論
- ・ 防災地質学特論
- ・ 環境影響評価特論
- ・ 地理情報解析特論
- ・ 防災構造工学特論
- ・ バイオマスエネルギー特論
- ・ エネルギー気象学特論
- ・ 風力エネルギー工学特論
- ・ 複合災害を考える
- ・ 電磁エネルギー工学特論
- ・ 地形プロセス学特論
- ・ 地殻変動・測地学特論
- ・ 防災・地域看護学特論
- ・ 自然災害科学特論
- ・ レジリエンス科学特別演習

特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

◎授業科目

選択必修科目

- ・ コミュニティデザイン特別研究ⅠA・ⅠB
- ・ コミュニティデザイン特別研究ⅡA・ⅡB
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究ⅠA・ⅠB
- ・ レジリエンステクノロジー特別研究ⅡA・ⅡB

■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

■取得可能な資格

- ・ 専門社会調査士

■履修モデル

〈研究テーマ例〉自然エネルギーの導入による地域経営の自立化			〈学位〉修士(地域共創社会学)
科目区分	1年次		2年次
地域共創科目	インターンシップA	インターンシップB 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 地域調査演習 地域研究特論	バイオマスエネルギー特論 応用社会学特論 社会教育演習 コミュニティデザイン演習	地域協同組合論
特別研究	コミュニティデザイン特別研究ⅠA・ⅠB		コミュニティデザイン特別研究ⅡA・ⅡB

〈研究テーマ例〉産学連携を通じた地域防災の推進			〈学位〉修士(地域共創工学)
科目区分	1年次		2年次
地域共創科目	インターンシップA	地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論	知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 政策・事業評価演習 グループ・ダイナミックス特論 防災地質学特論	防災構造工学特論	レジリエンス科学特別演習 産学連携学特論
特別研究	レジリエンステクノロジー特別研究ⅠA・ⅠB		レジリエンステクノロジー特別研究ⅡA・ⅡB

■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
コミュニティデザイン	曾 我 亨	生態人類学, 地域研究	古 村 健太郎	心理学
	羽 淵 一 代	メディア文化論, 文化社会学	花 田 真 一	政策の定量評価
	増 山 篤	地理情報システム	李 秀 眞	社会学
	高 瀬 雅 弘	社会学	越 村 康 英	社会教育学
	増 田 貴 人	地域子育て支援, 臨床発達心理学	土 井 良 浩	地域計画学
	平 井 太 郎	社会学	松 井 步	人文地理学
	近 藤 史	地域研究, 環境社会学	泉 直 亮	生態人類学, 地域研究
	白 石 壮 一 郎	地域研究, 社会学	宋 美 蘭	地域共創社会学
レジリエンステクノロジー	小 岩 直 人	自然地理学	島 田 照 久	エネルギー気象学
	長 南 幸 安	化学	道 家 涼 介	測地学, 変動地形学, 地震地質学
	梅 田 浩 司	応用地質学	若 狭 幸	自然地理学, 地球熱利用総合工学
	久保田 健	電気工学, 流体機械工学, 風工学	清 水 真由美	防災・地域看護学
	上原子 晶 久	土木建築工学	岡 田 里 奈	自然災害科学

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。
<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



産業創成科学専攻



■入学定員

15名

■研究領域・授与する学位

研究領域	学位
食産業イノベーション	修士(地域共創農学)
グローバルビジネス	修士(地域共創経営学)

■人材育成

『地域から攻める』 高度専門職業人の養成

社会科学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働し、「地域から攻める」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる高い能力を有する“地域社会の未来を切り拓くフロントランナー”を育成します。

■想定している進路

- ・ 製造業(食品関係)
- ・ 複合サービス業(農協、観光関係等)
- ・ 国際流通小売業
- ・ 商社
- ・ コンサルタント業
- ・ ソーシャルビジネス
- ・ 起業 など

■教育カリキュラム

地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理する手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に物事を考え、実行する力を身に付けます。

○授業科目

〈地域共創科目〉

- 必修科目**
- ・ 地域共創特論
 - ・ 地域共創演習

選択科目

- ・ インターンシップA
- ・ インターンシップB

〈スキル科目〉

- 必修科目**
- ・ 地域データ解析特論
 - ・ 知的財産管理特論

専攻科目

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作成を目指した特別研究を組み合わせることによって、地域が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

○授業科目

必修科目

- ・ 地域産業創成特論
- ・ 共創価値創出演習

選択必修科目

- ・ 食品栄養科学特論
- ・ 食品工学特論
- ・ 食品機能生理学特論
- ・ 園芸植物機能学特論
- ・ 食品副産物資源の飼料利用特論
- ・ 植物遺伝資源栽培特論
- ・ 非破壊分析特論
- ・ 食料科学特論
- ・ 食品利用科学特論
- ・ 食料科学演習
- ・ ベンチャービジネス特論
- ・ コミュニティビジネス特論
- ・ グローバルビジネス特論
- ・ プロダクトデザイン特論
- ・ 地域イノベーション特論
- ・ 経営情報分析特論
- ・ 中小企業特論
- ・ 農産物輸出ビジネス特論
- ・ 国際食品マーケティング特論
- ・ 食品循環流通学特論
- ・ 地域協同組合論
- ・ 国際フードビジネス特論
- ・ 国際農業開発特論
- ・ 産学連携学特論
- ・ 会計応用分析特論
- ・ アグリビジネス特論
- ・ 食サイエンス特別演習

特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指します。

○授業科目

選択必修科目

- ・ 食産業イノベーション特別研究ⅠA・ⅠB
- ・ 食産業イノベーション特別研究ⅡA・ⅡB
- ・ グローバルビジネス特別研究ⅠA・ⅠB
- ・ グローバルビジネス特別研究ⅡA・ⅡB

■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

■取得可能な資格

- ・ 食の6次産業化プロデューサー LEVEL3 (国家戦略・プロフェッショナル検定)

■履修モデル

〈研究テーマ例〉 地域の特性にあわせた機能性食品の開発		〈学位〉 修士(地域共創農学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 食品栄養科学特論	食サイエンス特別演習 地域研究特論
特別研究	食産業イノベーション特別研究ⅠA・ⅠB	食産業イノベーション特別研究ⅡA・ⅡB

〈研究テーマ例〉 加工食品の高付加価値を実現するビジネスモデル研究		〈学位〉 修士(地域共創経営学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA 地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 共創価値創出演習 ベンチャービジネス特論 農産物輸出ビジネス特論	グローバルビジネス特論 国際食品マーケティング特論 プロダクトデザイン特論 社会心理学演習
特別研究	グローバルビジネス特別研究ⅠA・ⅠB	グローバルビジネス特別研究ⅡA・ⅡB

■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
食産業 イノベーション	勝川 健三	花卉園芸学	前多 隼人	食品科学
	岩井 邦久	食品機能科学	永長 一茂	生体防御学、分子生物学
	佐藤 之紀	食品物性機能制御学	西宮 攻	水産科学
	中島 晶	食品安全生理学	谷本 憂太郎	食品利用科学
	中井 雄治	農芸化学	房 家 琛	畜産学
	島田 透	化学	林田 大志	農学
	君塚 道史	食品工学	山元 涼子	農芸化学
	樋口 智之	農芸化学	泉 ひかり	水産科学
グローバル ビジネス	津田 治敏	畜産物利用学		
	大橋 忠宏	交通政策、地域科学	高島 克史	経営戦略論、起業論
	森 樹男	国際経営論	大倉 邦夫	企業社会論
	黄 孝春	農産物貿易	佐藤 光輝	プロダクトデザイン
	泉谷 真実	食品循環流通経済学	柳 京熙	農業経済学
	石塚 哉史	食料経済学	佐藤 孝宏	国際農業開発論
	成田 拓未	国際食品マーケティング論	石本 雄大	国際フードビジネス論
	佐々木 純一郎	地域ブランド論	金 東 壹	アグリビジネス特論
内山 大史	付加価値創造科学	高野 涼	農村社会学、森林政策学	

教員紹介の詳細はこちらをご覧ください。
<https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/>



研究環境

〈大学院生室など〉

大学院生が利用できる院生室として、グループワークやディスカッションなどでの活用を目的とした「コ・ワーキング(共創)」型1室と、授業の準備や論文執筆、学会資料の作成など静かな環境で自修できる「スタディ(自修)」型2室の、合計3室あります。また、実験室や演習室など研究に必要な環境が完全に整っています。



〈研究支援制度〉

大学院生の研究を支援するために、院生室にコピー機を設置しており、研究のために必要な文献の複写等で利用することができます。

〈相談員制度〉

大学院生の疑問や悩みに対応するために相談員制度があります。相談員は、相談者のプライバシーが保たれるよう、また、不利益が生じないように配慮しつつ、関係各所と連絡・協議して、問題解決にあたります。

授業科目、研究指導、成績評価に関する疑問・質問・苦情、メンタルヘルスやハラスメントに関する悩み、その他研究生活全般に関する事柄について相談を受け付けています(相談者のあらゆる不安に応えられるよう、研究科だけでなく全学の相談窓口も設けています)。

また、専門の学生相談員・ハラスメント相談員を設け、授業や生活に関する相談のほか、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどに関する苦情を受け付けています。

深刻・重大な問題が生じた場合も、本研究科または弘前大学が責任をもって対応します。

社会人支援制度

〈教育方法の特例制度〉

社会人学生への特例として、正規の授業時間帯以外の時間帯等に授業または研究指導を受けることが可能な場合があります。希望者は、担当教員と事前に相談してください。

〈長期履修制度〉

2年分の授業料で、最長4年間かけて研究に取り組むことができます

社会人の方の就学を容易にするとともに、経済的負担等の軽減を図るために長期履修制度を実施しています。この制度の適用対象者は、職業を有している者(自営業、臨時雇用、非常勤等を含む)で、認定された方は2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができます。

■通常の学費(2年間在籍)

入学料	282,000円
授業料	535,800円(年額)×2年間

■長期履修制度(4年間在籍)

入学料	282,000円
授業料	267,900円(年額)×4年間

大学院で学ぶために必要となる主な経費

◎検定料 ◎入学料 ◎授業料 ※改定となる場合があります

検定料	30,000円	入学料	282,000円	授業料(年額)	535,800円
-----	---------	-----	----------	---------	----------

※入学料に改定があった場合は、改定後の入学料が適用されます。
※授業料は、原則として前学期・後学期に分割し、それぞれ267,900円を5月と10月に徴収します。
※授業料に改定があった場合は、改定後の授業料が適用されます。

◎修学・研究活動に必要な保険の加入料

安心して修学及び研究活動ができるように、学生教育研究災害傷害保険(略称「学研災」)及び学研災付帯賠償責任保険(略称「学研賠」)への加入を推奨しています。

■修士課程(2年)

学研災	1,750円	学研賠	680円
-----	--------	-----	------

学費・奨学制度

研究・勉学への意欲がありながら、経済的な理由によって本学大学院での修学が困難な学生や、優秀な学業成績・研究成果を持つ学生に学費等を支援するために、以下の奨学制度があります。

〈日本学生支援機構奨学金(貸与型)〉

奨学金の貸与月額は次のとおりです。

【第一種(無利子)】

月額50,000円または88,000円

※「特に優れた業績による返還免除」について

大学院在学中に優れた業績を挙げた場合、大学院で貸与を受けた第一種奨学金の全額又は一部の返還が免除されることがあります。

【第二種(有利子)】

月額/50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択

〈岩谷元彰弘前大学育英基金(奨学金給付事業)〉

成績優秀でかつ経済的理由により修学が困難な学生に対して、一人20万円の奨学金を給付します。

※上記支援の対象者は選考により決定されます。なお、詳細については必ず、下記担当にお問合せください。

これ以外にも様々な奨学制度があります。詳細はお問い合わせください。

■入学料・授業料免除等の確認はこちらから

[弘前大学ホームページ](#)

[学生生活](#)

[入学料・授業料免除等](#)



学務部学生課生活支援グループ経済支援担当 TEL.0172-39-3117

入学試験

2027年度 入試日程(予定)

(第1期募集) ●出願期間 2026年5月25日(月)～5月29日(金) ●試験実施日 2026年7月18日(土) ●合格発表日 2026年7月30日(木)	(第2期募集) ●出願期間 2026年11月30日(月)～12月4日(金) ●試験実施日 2027年2月7日(日) ●合格発表日 2027年2月12日(金)
---	---

弘前大学大学院地域共創科学研究科(修士課程)の入学者の一般選抜は、「第1期」と「第2期」で実施する予定です。いずれにおいても、試験出願前に入学後の指導予定教員と研究に関する事前協議を行ってください。

2027年度 募集人員

専攻	研究領域	募集人員
地域リノベーション専攻	コミュニティデザイン	15名 (研究領域毎に半数程度)
	レジリエンステクノロジー	
産業創成科学専攻	食産業イノベーション	15名 (研究領域毎に半数程度)
	グローバルビジネス	

■募集要項請求・問い合わせ先

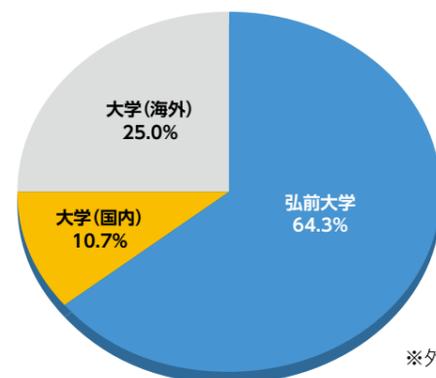
請求先	弘前大学 学務部 入試課
請求先住所	〒036-8560 青森県弘前市大字文京町1番地
電話番号	0172-39-3973 / 0172-39-3193

弘前大学入試課ホームページ
<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>

請求方法等、詳細をご確認ください



令和7年度入学者(出身大学別)



※外国人留学生7名

新入生の声

学び直しの先にあるもの得たものを子どもたちへ伝える役割に

地域リノベーション専攻 レジリエンステクノロジー研究領域 新1年

ほり かなと
堀 奏音 さん

北海道 出身
弘前大学 教育学部 卒業



大学院への進学を考え始めたのは、今から10年ほど前になります。高校の教壇に立ちながら「もっと学びたい、地理学を自分の中で深めたい」という思いを、心のどこかで持ち続けてきました。日々の忙しさの中で決断できずにいましたが、人生を振り返ったときに後悔はしたくないと考え、進学を決めました。

進学後は地域リノベーション専攻レジリエンステクノロジー領域で、城下町の都市構造について研究する予定です。当研究においては地形を考慮したアプローチが不可欠で、地理的要因が都市の構造にどのような影響を与えているか、地形学の視点から研究に取り組もうとしています。様々な分野のプロフェッショナルがいる地域共創科学研究科の学習環境は、文理の枠を越え、地域に根差した研究をスタートさせる自分にとって最適な環境であると感じています。

大学院での研究では、机上の議論だけでなく、フットワークを軽くして実際に現地へ足を運び、自分の目で見て、感じることを大切にしたいと考えています。また、研究で得た視点や知見を、地理の授業や総合的な探究の時間、課外活動などに活かしていくだけでなく、弘前をはじめとする城下町起源の都市が、今後さらに魅力を高めていけるよう、地理学の立場から貢献できる人材になりたいと思っています。

私は社会人になって15年が経ってから、大学院への進学を決めました。「とりあえずやってみよう」という気持ちで一歩踏み出したことが、今の自分につながっています。進学を考えている方には、「やってみよう」と感じたその気持ちを大切にしてほしいと思います。

踏み出した一歩が今につながる未知の健康食品をめざして

産業創成科学専攻 食産業イノベーション研究領域 新1年

くま がい あおい
熊谷 碧 さん

宮城県 出身
弘前大学 農学生命科学部 卒業



私が食品分野を志すようになったきっかけは、高専4年次に経験した食品会社でのインターンシップでした。それまで学んでいた分野とは異なりましたが、開発の現場を間近で見て、「食」に関わる仕事の面白さを実感しました。もともと食べることに好きだったこともあり、食品について専門的に学びたいと考えるようになりました。大学に進むなら大学院まで、と当時から思っており、高専から弘前大学農学生命科学部へ編入しました。

現在はトノサマバツタから抽出した油がマウスの糖・脂質代謝にどのような影響を与えるかをテーマに研究を行っています。実験ではバツタ油を摂取することで血糖値の低下が見られるという結果が出ています。一方、脂質代謝への影響についてはまだ不明な点も多く、今後さらに検討していく予定です。昆虫食自体の研究はまだ多いとはいえ、その中でもトノサマバツタの油となると、解明されていないことばかり。食品として一般的ではない未知の素材だからこそ、自分が少しずつ明らかにしていく感覚がやりがいそのものです。実験は決して楽なものではありませんが、試行錯誤を重ねながら結果を積み上げていく過程そのものが好きで、大学院ではさらに多くの時間を研究に充てたいと考えています。

将来は食品メーカーで開発職に就き、自分が手がけた商品で人を健康に、そして笑顔にする食品の開発を夢見しています。脂質に関する研究を活かし、生活習慣病の予防や、太りにくく安心して食べられる食品の開発に携わることが目標で、おいさと健康の両立に貢献できる人材になりたいですね。

これまでを振り返ると、高専への進学、大学への編入、そして大学院進学と、自分の人生にはいくつかの大きなタイミングがありました。その時々で思い切って挑戦したからこそ、今こうして研究に熱中できているのだと思います。すべてはタイミング。頑張る時、挑戦する時、少し立ち止まる時。その一瞬を大切にしながら、自分のやりたいことに向き合っていきたいです。



地域リノベーション専攻
コミュニティデザイン領域
2年

ふかだ あゆむ
深田 歩さん

岩手県 出身
東北大学 農学部 卒業

弘前で見つめる地図と人の関係 暮らしているから見えるもの

弘前に惹かれたのは、旅行で訪れたときに感じたまちの雰囲気でした。歩いていて楽しく、大学の周りにはお店もあり、都市の規模は大きくないけれど、暮らしの中に心地よさがある。何より岩木山の存在が印象的で、あまりの美しさに何度も写真を撮ったことを覚えています。こうした日常に魅力を感じ、ここで暮らしながら研究したいと思うようになりました。

現在は東京の地下鉄路線図を対象にした研究に取り組んでいます。学部時代は農業リモートセンシングを学び、衛星画像などのデータを地図上に重ねて分析していました。その際、地図や位置情報を扱うソフトウェアに触れたことが、今の研究のルーツになっています。当時はデータを観測する側の視点で中心で、実際に利用者の声を聞く機会はありませんでした。だからこそ使う人の感覚を研究に取り入れたいと考えています。その中で、路線図の色や形といったデザイン要素が、所要時間の予測にどのような影響を与えるかを、アンケート調査を通して分析しようとしています。路線図のデザインに関する先行研究は少なく、文献を見つけては整理する作業の繰り返しですが、新しい分野に挑戦している実感があるほか、地図が好きなので意識せずとも、地図帳を眺めたり、日常の中で見え方の違いに気づいたり、生活の中にヒントがあると感じています。

弘前で暮らし、学生広報スタッフとして取材をしたり、リンゴ販売のアルバイトをしたりする中で、地元の人々の声に触れる機会も増えました。実際に住んでみると、雪の多さや移動の感覚など、外からではわからなかったことが見えてきます。土地に住む人にしか知り得ない体験こそが、研究に深みを与えてくれるものだと思います。

将来は、地図や移動、地域といった分野に関わりながら、多様な価値観を持つ人たちが、それぞれの場所で居心地よく暮らせる「当たり前」を支える仕事がしたいですね。弘前での生活と研究を通して得た実感大切にしながら、自分なりの視点で社会と関わっていきたいです。



地域リノベーション専攻
レジリエンステクノロジー領域
2年

こいわ けいご
小岩 圭吾さん

北海道 出身
弘前大学 理工学部 卒業

青森の大地と向き合う 変化を読み解く地盤沈下の研究

私が取り組んでいるのは、青森県の津軽平野を対象とした地盤沈下の研究です。学部時代から地球物理に興味があり、地震や地下構造など、地球にまつわる物理現象について学んできました。大学院への進学を考えたのも、そうした分野をより深く掘り下げたいという思いがあったからです。

現在の研究テーマを決めたのは大学院に進んでからでした。学部時代は地震動を用いた地下構造の推定に取り組んでおり、分野としては今と大きく変わりません。ただ、テーマそのものよりも、どんな手法を使って研究するかに強い関心があり、指導教員からのアドバイスを受けながら、興味のある調査手法を活かせる今の研究にたどり着きました。

津軽平野は全国的に見ても地盤沈下の進行速度が大きい地域です。現時点では大きな被害が表面化していないこともあり、原因の特定や対策は十分に進んでいないのが現状です。しかし、地盤沈下が進めば建物の傾きやひび割れ、津軽平野においては川沿いの地域が多いので、浸水被害のリスクが高まる可能性があります。人為的な要因か、自然的な要因かなど、複数の可能性を考えながら原因を探っていく必要があり、困難な研究である反面、やりがいを感じています。研究では衛星データを用いて地表面の変動を解析し、地盤沈下の状況を把握しています。現地調査も重要ですが、コストや時間の制約もあるため、まずは衛星を使ってどこまで明らかにできるかを探っています。この手法は、将来的には地すべりなど、他の災害予測にも応用できる可能性があり、防災分野への貢献にもつながると考えています。

将来については、まだはっきりとした形を描けていません。ただ、自分の興味を赴くままに行動できる環境に身を置きたいという思いはあります。やりたいことが明確ではない人も、少しの興味があるなら大学院への進学も選択の一つだと思います。様々な価値観や意見に触れられるというのは、学生の特権ではないでしょうか。その経験はきっと将来の糧になると思いますよ。



産業創成科学専攻
食産業イノベーション研究領域
2年

ばんば しょうご
番場 省吾さん

東京都 出身
弘前大学 農学生命科学部 卒業

食と科学の視点から 生活に+αの豊かさを生み出したい

高校、大学と私が研究や進路を考える上で大切にしてきたのは「生活に+αの価値を生み出したい」という思いです。医療やインフラなど人の生活を支える仕事も重要ですが、それに加えて、日常を少し豊かにするような何かを生み出したいと考えてきました。食べることが好きだったこともあり、自分なりの+αを生む方法として「食」に関わる道を選び、食品を専門的に学べる弘前大学で学んできました。

現在は、食品を冷凍した際に品質を低下させる要因の一つである「氷」に着目した研究を行っています。糖(スクロース)水溶液の中で、氷がどのように形成されるのかを調べることで、食品冷凍時の品質保持につながる知見を得ることが目的です。身近で日常的な食品をモデルにしながらも、実社会の課題に直結する研究である点に、面白さとやりがいを感じています。社会では主に食分野で生かされるこの知識ですが、氷が雲で生成される過程などの領域にも触れるので、気象に関連する分野にも応用することができます。また、感覚的な評価ではなく、科学的な数値に基づいて考察できる点も、自分の性格に合っていると感じています。

学部時代は、毎日同じような研究の繰り返しに辛さを感じる時期もありましたが、研究との向き合い方やリフレッシュの仕方を見つけたことで、研究そのものを前向きに楽しめるようになりました。大学院では授業が減り、自分で使える時間が増えた分、その時間をどう活かすかを考えながら研究に取り組んでいます。

将来は、食品メーカーなどで研究職として働き、食を通じて人の生活に+αの価値を提供したいと考えています。例えばチョコレートやコーヒーは生きるために必要なものではありません。食べなくても生きていけるけど、生活に豊かさをもたらしてくれる存在ではあるはず。そうした「あると嬉しいもの」を科学の力で生み出し、人が美味しいものを食べて笑顔になる瞬間に関われる仕事ができたらと思っています。

大学院への進学は、時間を使って自分のやりたいことや目指したい将来を考える貴重な機会になります。進学を考えている方には、自分が何に+αを生み出したいのか、その軸を持って選択してほしいと思います。



産業創成科学専攻
グローバルビジネス研究領域
2年

しらとり みゆう
白取 美優さん

青森県 出身
弘前大学 農学生命科学部 卒業

赤いリンゴの研究を深めながら 生産者に寄り添う将来を描く

果肉まで赤い「御所川原」という品種のリンゴの研究を学部時代から続けています。強い酸味を持ったこの特徴的なリンゴの生産・流通について学ぶ中で、まだまだ追求する余地があると感じて大学院へ進みました。

御所川原は生産者が少なく、生産量も限られている品種なので、文献や数値データだけでは実態を把握しきれない側面があります。そのため生産者のもとへ足を運んで行うヒアリング調査は貴重な情報源です。栽培方法や生産上の課題、販売先の状況、どのような加工品として流通しているのかなどについて話を聞き、生産から消費者に届くまでの流れを調べています。ヒアリングを重ねることで、生産者の立場から見た課題や、流通に関する現実的な難しさが見えてきました。

大学院1年目は授業を履修しながら週に一度のゼミに参加し、研究を進めてきました。修士論文のテーマ設定に向けて先行研究となる論文を数多く読み込み、どのような視点で研究を組み立てていくかを検討している段階ですが、2年になると授業はほとんどなくなり、研究に向き合う時間が増えるので、今は土台づくりの時期だと感じています。時に行き詰まることもあるものの、指導教員の先生方は対話を通して考えを整理し、次の一歩を示してください。文献の探し方や視点の広げ方など、丁寧にサポートしてもらえ環境は進学して良かったと感じる点の一つです。

将来は、青果物の卸売など、生産者と消費者をつなぐ立場で働きたいと考えています。生産者がつくったものを適正な価格で評価し、確実に消費者へ届ける役割を担うことで、生産者を陰ながら支え、食を通じて社会に貢献できる人材になることが目標です。

進学を考えている方は自身の関心の軸を考えてほしいです。私の場合は農業や食品の分野に関わりたという気持ちで、社会に出てもその軸は変わらないと思います。大学院に進んだことで、自分の興味関心や進路について時間をかけて考えることができました。



RESEARCH HIGHLIGHTS ①

地域をリノベーションする「学び」とその支援



越村 康英

コミュニティデザイン研究領域

(E-mail) koshimura.y@hirosaki-u.ac.jp

「地域づくり」とは、つながりを紡ぎ、暮らしに関わる地域の課題を解決しながら、いまある「地域の現実」をより良い方向へとつくり変えていく(リノベーションする)自治的な営みです。そこには、地域に生きる人々の共同的な学習活動が不可欠な要素として内在しています。社会教育学を専門とする私の研究は、そうした学習活動をいかに組織し、支援するのかというところにあります。「実践に学ぶ」という姿勢を大切に、社会教育行政や公民館に着目し、暮らしや地域の現実に根ざした社会教育「事業」のあり方(学習プログラム論・評価論)、住民の学習活動を組織・支援する社会教育「職員」のあり方(専門性論)について研究しています。特に近年は「社会教育職員の事業実践にみる社会的包摂へのアプローチ」や、「社会教育士制度創設下における社会教育主事の役割と専門性」をテーマに研究を進めています。



RESEARCH HIGHLIGHTS ②

地域の風力エネルギーを最大限活用する

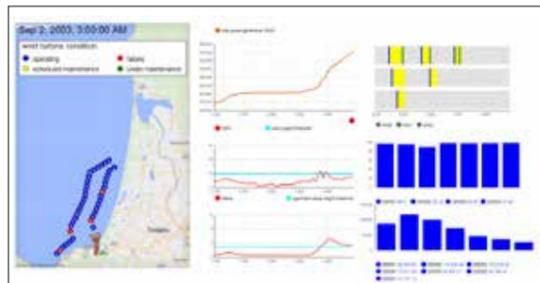


久保田 健

レジリエンステクノロジー研究領域

(E-mail) kubott@hirosaki-u.ac.jp

風資源を活用して地域貢献するための研究・教育・情報発信に取り組んでいます。洋上風力発電は日本の未来を支えるエネルギーとして期待されていますが、国内では何例かの建設・運転が始まったばかり。今後、地域と共生できる発電所の運営、ひいては洋上風力エネルギー導入量の増進を図るためには、発電コストを抑えて事業性を高めることが不可欠です。そのため、洋上風力発電所の建設および30年にわたる運転・維持管理(O&M)期間におけるロジスティクスの最適化研究を進めています。また、非電化地帯での作業の多い農水産業や人口減少で既成の社会インフラ整備が難しくなりつつある、地方の課題解決策として、マイクロサイズの風車を用いた動力・発電システムの研究を進めています。ほか、沿岸や山稜地帯の風況統計解析や予測等についても取り組み、それらの成果を学会や県内環境イベントで発表しています。



(洋上風力発電所の維持管理シミュレーション)
 #そのためにプログラムも自作



生簀で揺動している風車としての性能計測と
 3次元シミュレーションの流れ場可視化



RESEARCH HIGHLIGHTS ③

園芸科学で描く地域の未来、「栽培」は「文化」を育む



勝川 健三

食産業イノベーション研究領域

(E-mail) kenzo_k@hirosaki-u.ac.jp

植物に園芸科学の光を当てると豊かな世界が見えてきます。例えばカタクリ。栽培化の研究を通じ、球根更新の仕組みや、母球生体重が約3gを下回ると生殖成長から栄養成長へ回帰する特性が明らかになってきました。この成長相を可逆的に行き来する柔軟な生命力は、知的好奇心を強く刺激します。板柳町の皆さんの想いから始まった「真澄の白たんぽぽ」を救う試みは、絶滅危機の地域文化を保護する象徴的な事例です。生物工学的手法により、発芽能力を失っていた本系統の増殖に成功。2025年度には小学校の教材として採用されるに至りました。この取り組みは、生物多様性の保全のみならず、地域振興を担う大きな可能性を秘めています。「栽培(culture)」とは、文字通り「文化」を育む営みに他なりません。学術的な基礎知見の集積に留まらず、それを社会へ実装し、地域を豊かにする。そんな血の通った研究の面白さを、ぜひ共に探究してみませんか。



RESEARCH HIGHLIGHTS ④

食品流通の構造分析からみる社会経済動態



柳 京熙

グローバルビジネス研究領域

(E-mail) youghee@hirosaki-u.ac.jp

農産物および食品流通は、生産、加工、卸売、小売、消費といった複数の段階から構成され、制度、政策、市場環境の影響を受けながら相互に連関しています。流通構造や流通主体の行動を理論的・実証的に分析し、物価形成のメカニズム、企業の調達・販売戦略、国際的な需給変動との関係性を明らかにすることが可能となり、食品価格の上昇や輸入依存度の拡大についても、流通段階ごとのコスト構造、取引慣行、制度的枠組を整理することで、その背景を説明できる能力を培います。流通過程では企業や小売業者に加え、生産者組織などの中間的主体が果たす役割も重要です。これらが市場構造に及ぼす影響、食品安全管理、環境負荷低減、地域農業・食品産業の発展、国際貿易体制といった課題を分析し、農産物および食品を切り口に、経済と社会の構造的変化を実務や政策立案にも応用可能な視点と思考力の修得を目指しています。



修了生の声



令和6年度
地域リノベーション専攻 修了
青森県教育庁文化財保護課 勤務
佐々木 啓祐 さん

在学中は地域計画学を専攻し、青森県内のねぶた・ねぶた祭りの現状と継承のあり方について研究していました。祭りの担い手である団体や個人を対象にヒアリング調査を行いました。情報収集という一方的な関わり方でなく、多くの人と一緒に地域について考え課題を解決していくことを意識して取り組みました。修士論文においては、研究の方向性が定まらない時期もありましたが、指導教員をはじめとする先生方から助言をもらい、自分が納得する方法や表現を求めることができました。

現在は、青森県庁に入庁し、文化財の保存活用や継承に向けた取り組みを支援しています。専門的な業務に関わる機会は少ないですが、大学院で培った知識や考え方は、様々な事業内容を理解するうえで役立っています。

大学では、教育学部の歴史学ゼミに所属し、高校の教員になることが夢でした。しかし、卒業論文の作成にあたり、私自身が当事者として関わってきたねぶた祭りについて理解を深めたいと思い、大学院への進学を考えるようになりました。当初は、就職を先延ばしにしてまで研究をすべきかと悩むことがありましたが、周囲の先生方が私の考えや思いに寄り添い、全面的に後押ししてくださったおかげで、進学を決意することができました。

大学院の研究について、難しく大変なイメージを持っている方は少なくないと思います。しかし、研究のかたちは人それぞれであり、自分の興味のあることを全力で追求することで可能性は広がっていくはず。ぜひ、勇気を持って挑戦することのでかけがえのない学びを手に入れてほしいです。



就職支援

弘前大学教育推進機構キャリアセンターでは、インターンシップ、就職ガイダンス、業界研究会、各種企業説明会、就職相談、求人開拓及び情報収集等、さまざまなキャリア支援を行っています。

■就職・進路相談

専任のキャリアアドバイザーが、年間を通して相談を受け付けています。
相談の対象は大学院生を含む弘前大学の学生全員で、学年の制限はありません。

■求人票等の閲覧

求人検索システム「弘前大学キャリアコミュニティ(キャリアコム)」による求人情報の公開を行っています。
学内外のどこからでも閲覧・検索することができます。

キャリアセンターの利用について

学年・学部を問わず、どなたでも利用できます。

◎利用時間/月曜日～金曜日(祝日・年末年始等を除く) 9:15～17:00

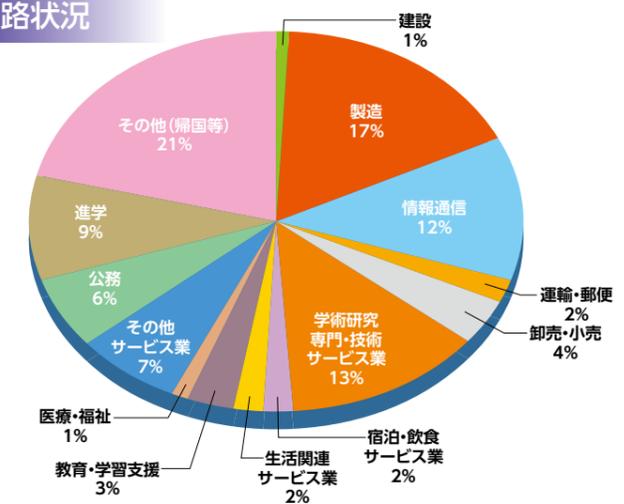
◎場所/総合教育棟1階

◎TEL/0172-39-3129 ◎FAX/0172-39-3131 ◎E-mail/scc@hirosaki-u.ac.jp

◎ホームページURL/https://career.hirosaki-u.ac.jp/



令和3～7年度修了生進路状況



ACCESS MAP



JR弘前駅からのアクセス

※道路状況により所要時間が変わりますのでご注意ください。

- (1) 徒歩：約20分
- (2) バス：約15分(駅前3番のりば乗車、弘前大学下車)
- (3) タクシー：約 5分



国立大学法人 弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
TEL.0172-36-2111(代表)

人社・教育事務部総務グループ教務担当 TEL.0172-39-3960
メールアドレス jm3960@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学ホームページ

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



弘前大学入試課ホームページ

<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/>

